

「袴田事件」から 死刑えん罪を

シンポジウム

考 える

死刑制度の廃止を考える際に、「死刑えん罪」は重要な視点となります。日弁連では、みなさんに死刑制度の問題を知っていただくため、今回は袴田事件に焦点をあて、弁護団、論説委員とともに死刑えん罪の問題を考えるシンポジウムを開催することといたしました。ぜひ御参加ください。

※本シンポジウムは、新型コロナウイルス感染症対策として、会場参加（先着30名）及びオンライン（Zoomを利用したウェビナー）にて開催いたします。

弁護団報告

差し戻し審の争点と展望

小川 秀世 弁護士 [袴田事件弁護団事務局長]

講演

法務省がひた隠す死刑執行のリアル

佐藤 大介 氏 [共同通信社編集委員・論説委員]

死刑執行の実際はブラックボックス。先進諸国と比較すると、そのプロセスは秘密主義に貫かれている。前近代的な「民は由らしむべし、知らしむべからず（論語）」の慣行が、150年も変わらずに続けられている。死刑賛成論者も反対論者も、まずはその実態を知らなければならない。死刑囚はいつ、どのように執行を知らされるのか。絞首はどのように実行されるのか。その他諸々の具体的事実を目の前にして、「死刑賛成」と言い続けられるのか。

ビデオ

凍りついた魂——袴田巖に襲いかかった死刑えん罪

死刑えん罪事件の被害者・袴田巖さん。「犯人」として逮捕・長期拘留され「確定死刑囚」と辱められた。独房生活48年間の後、2014年再審開始決定とともに解放されて現在に至る人生。その時々、如何に虐待されてきたのか。その結果、肉体と精神に残された痕跡がどのようなものか。姉の袴田ひで子さん、供述心理学者の浜田須美男氏（奈良女子大学名誉教授）、元衆議院議員の保坂展人氏（現世田谷区長）、精神医学者の中島直氏（多摩あおば病院副院長）、困難な局面打開に尽力された方々へのインタビューを通してそれらを明らかにする。死刑えん罪の深い闇とあまりの残酷さを告発する。

【事前申込制・参加無料】※会場参加は先着30名

令和5年1月17日 午後5時～7時30分

弁護士会館17階1701会議室（東京都千代田区霞が関1-1-3）



会場参加（定員：先着30名）は以下からお申し込みください。

<https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/hjippankaijyo/0117sympo/>



オンライン参加（Zoomウェビナー）は以下からお申し込みください。

<https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/hjippanzoom/0117sympoz/>

※Zoomウェビナーの参加用URLは、当日までにメールでお知らせいたします。

主催：日本弁護士連合会